

“Heart to Heart”

心から心へ わちあう あたたかさ

第9巻 第1号 (No.26)
発行日 平成26年7月1日

目次:

夏の暑さに一歩きの効用	1
コラム: 自閉症児の 教育と研究(1)	2
療育プログラムのようす	2/3
コラム: コミュニケーション 支援の一側面	4
ご案内	4

夏の暑さに一歩きの効用

昨年は猛暑が続きましたが、今年の夏の暑さはどうでしょうか。夏休み中にお子さんが暑さ負けをしないように過ごしていただきたいと思います。こうした夏場の対処として言われることは、生活リズムをととのえるということです。そのためには、早寝早起きの十分な睡眠と規則正しい食生活、そしてとくに子どもの場合、戸外での適度な運動を欠かすことはできません。

この戸外での運動を考えると、何から始めたらよいのか悩まれるかも知れません。普段から水泳教室に通っているとか、サッカーチームに入っているなどというお子さんは多くはないでしょう。発達障害の子どもたちは、体の使い方がぎこちないということがよく言われますが、運動の基本である歩き方にしても不自然に感じられるお子さんが少なくありません。日常生活の中で手っ取り早くできる運動の一つとして、この歩くということに着目したらいかがでしょうか。最近是不健康な体の状態を改善したり、予防したりするのに適した無理のない運動ということで、このウォーキングを実践している人が多くなりました。人間の基本的な生活行動である「歩く」という行為は、手軽にできる運動で、体づくりの途中にある子どもにとっては身体機能の発達を促すことにつながります。

学説によると、人間の脳の発達の4分の1は歩くことによってもたらされたも

武蔵野東教育センター所長 長内博雄

のだそうです。歩きは、7、8割近い体の筋肉をまんべんなく動かすことになる全身運動で、その結果、新鮮な空気を取り込んで内臓の働きを活気づけ、血液の循環を促します。筋肉の知覚神経が刺激を受けて脳幹の働きを活発にし大脳により刺激を与えるという作用は、子どもの発育にぜひとも必要なことです。歩くことによって基礎代謝量が増え筋力が作られるわけですが、姿勢を支える筋肉の一つである大腿筋が鍛えられるので、姿勢がよくなります。バランス感覚なども磨かれてくるかも知れません。

何事も無理はいけません、やはりある程度時間をかけて歩くことが大切かと思えます。長めの散歩でもいいですし、夏休みにはご家族でハイキングに出かけるのも楽しい一日になります。木々の葉が陽の光にきらめいたり風に吹かれてざわめいたりする空間にただいて、知らぬ間に体中の細胞が元気を取り戻します。山道歩きなどは、本来体の小さい子どもの方が大人より得意なものですので、お父さんお母さんの健康増進を兼ねてぜひトライしてみることをお勧めします。ほどよいハイキングは子どもに達成感と自信をもたらしますので、きっとお子さんは体を存分に使うこれらの活動が大好きになってくるかと思えます。

この夏には親子共々十分に英気を養い、9月にはまた元気に教育センターに通っててください。





コラム 自閉症児の教育と研究 (1)

武蔵野東学園との出会い

武蔵野東学園創立50周年、誠におめでとうございます。

私と武蔵野東学園そして北原キヨ先生との出会いは、1979年(昭和54年)のことでした。それから2004年(平成16年)3月までの25年間、私は国立特殊教育総合研究所(現・国立特別支援教育総合研究所)の分室に勤務しておりました。研究所の本部は、当時から現在まで横須賀市久里浜にあります。研究所の分室は、昭和51年から平成16年までの28年間、武蔵野東小学校に隣接する敷地にあり(現在の北原記念館の位置です)、文部省の直轄研究機関として、交流教育をはじめとした自閉症児の教育に関する研究を行っておりました。

分室の敷地には、芝生の庭と遊具、そして小さな畑があり、私が着任した昭和

54年当時は、武蔵野東小学校の子どもたちが毎日のように遊びに来ておりました。

北原キヨ先生も、しばしば分室においでになり、分室の職員も、様々な調査と研究を武蔵野東小学校で実施しておりました。当時、北原キヨ先生は、中学校や高等専修学校だけでなく、東学園の卒業生の進路となる大学や彼らが働ける地域社会をつくるという構想を、力強く語っておられたことを私は鮮明に憶えております。

私は東京教育大学(現・筑波大学)の大学院生の時、はじめて自閉症児と出会い、その後、渋谷区教育センター相談員の勤務を経て、文部教官研究職として分室に赴任しました。そして、平成16年に茨城大学へ転勤

し、特別支援教育や心理学関係の講義を担当するとともに、自閉症や発達障害の研究を続けております。

自閉症児とはじめて出会ってから、38年目となりました。

私は今でも、毎年、茨城大学の大学院生を引率して武蔵野東学園を見学したり、学園の行事に参加したりしております。また、東京大学駒場キャンパスで夏に実施している調査研究では、東学園の保護者の方々とお話する機会もあります。

このコラム(4回シリーズ)では、自閉症児の教育と研究に関する話題を書かせていただく予定です。



療育プログラムのようす

アート教室 6月は色鉛筆やクレヨンを使い、葉っぱのこすり出し絵(フロッターージュ)に取り組みました。どうすれば葉っぱの葉脈を上手にこすり出せるか、試行錯誤の子どもたちでしたが「そっとこする方がきれいに出る!」「青色はよく見えるね。」など、回数を重ねるごとにコツをつかんでいました。筆圧や力加減を意識して調節する練習にもなったようです。最後は一枚ずつ葉を切って、牛乳パックのキューブに貼って飾りました。(北川)



葉っぱのキューブ

言語プログラム ひらがなビンゴなどのゲームを通して、言葉がいくつかの音で、どんな文字でできているのか、楽しみながら学んでいます。子どもたちは、文字が見つかったら、「あった!」と嬉しそうにしていました。話し方がはっきりしてきたり、返事をきちんと言えるようになったりと、それぞれに成長がみられています。(大菅)



ひらがなビンゴ

体育教室 今年もホッピングや竹馬などのバランス器具を通じ、多くの子どもたちに「できるかも?」スイッチが入りました。今までは、「どうせ、僕には無理だな」と何事にも消極的だった子ども、できなかったことができるようになることで、少しずつ自分に自信を持てるようになっていきました。そうした時の笑顔は、やはり言葉では表現できませんね。(鈴木)



とんで!



腹筋もがんばっています!

ダンス教室 日頃から腹筋と背筋を鍛えています。美しい姿勢を維持するためにも必要ですが、ダンスを上手に踊るためにも欠かせません。大分体がしっかりしてきて、春から取り組んでいるスキップとギャロップも形になってきました。引き続き練習しながら、7月はツーステップにも挑戦していきます。(新堂)



友だちにインタビュー

SST教室 5・6年生のクラスでは友だちとペアになって、互いに質問し合う『インタビュー』を行っています。友だちが答えてくれたら、質問者はその答えに対して必ず相槌をうつことをルールにしています。「へえ〜」「そうなんだ」などの言葉を具体的に教えて、質問→回答→相槌という会話の流れがスムーズに行えるように練習しています。(大澤)



幼児 あじさいの花がきれいな季節になりました。この時期は「かえる、かたつむり、あじさい」などの製作に取り組んでいます。シールを貼ったり、花紙を丸めたり、折り紙をちぎったり、はさみで切ったり、模写をしたりと各学年ごとに取り組み方は様々です。かえるになったつもりで「げろ、げろ、げろ、くわっ、くわっ、くわっ」と「かえるのうた」も上手になりました。(本田)



のりでべったん！あじさいのできあがり！

1年生 音楽で鍵盤ハーモニカの練習に入りました。息をしっかりと吹き込んで鍵盤を押すといういろいろな音が出るので、みんな大喜びです。黒板の鍵盤ハーモニカ模型を見ながら「どーれーみー」と友だちと音を合わせて吹くことや「きらきらぼし」の曲にも挑戦しました。「先生、たのしい！」「また、やりたい！」と次回の練習をとっても楽しみにしていました。(宮下)



鍵盤ハーモニカ 黒板教材と同じ色だね

2年生 図工では、粘土を使って「あじさい」や「かたつむり」など、6月ならではの作品を作りました。手の平を使った作業だけでなく、ちぎる、指先で丸める等の細かい操作も多いため、子どもたちは一つ一つの指示をよく聞いて、活動に取り組んでいます。少しずつ細かい操作も上手になって、楽しみながら皆で製作に取り組むことができました。(猪野)



粘土でかたつむり



雨のしずくに顔を描いて

3年生 算数の「円と球」で、コンパスを練習しました。最初はぎこちなかったコンパスの操作でしたが、練習するうちに次第に滑らかに円が描けるようになりました。図工では、雨のしずくを折り紙で折りました。一つ一つに顔を描いて、個性的な作品に仕上がりました。完成した雨のしずくは紙テープに貼り、教室のガラスに飾りました。まるで教室に雨が降っているようでした。(諸橋)



「かたつむり」折り紙を使って

4年生 算数の学習では、分度器や三角定規を使って角度や垂直線・平行線を引く学習を行っています。また、図工の学習として折り紙を使い「アジサイ」「カタツムリ」などを作成しました。指先を使う作業が多くありますので、手元をよく見ること、力入れ方などを意識するように声をかけています。回を重ねるごとに上達が見られ、自信を持って活動に参加しています。(藤本)



リレー読み音読

5年生 国語では『天気を予想しよう』という説明文の学習をしました。専門用語などの難しい言葉が書かれている部分もあるため、読み間違いがないよう注意しながら音読しました。一人ずつ順番に読み、句点がついたら次の友だちが読む『リレー読み』を行いました。自分の順番を意識して、友だちが読んでいるときはしっかりと聞いて、音読することができました。(大澤)

かえるのうた かえるのうたが きこえてくるよ クワ クワ クワ クワ ケロ ケロ ケロ ケロ クワ クワ クワ (やすみ)	かえるのうた (やすみ) かえるのうたが きこえてくるよ クワ クワ クワ クワ ケロ ケロ ケロ ケロ クワ クワ (やすみ)
---	---

輪唱にチャレンジ

6年生 音楽では、「輪唱」に取り組んでいます。6月は「かえるの歌」で、初めて輪唱に挑戦しました。他のグループにつられないで歌うこと、後から歌いだすグループはタイミングを計って歌い始めることがポイントですが、繰り返すうちに担当者が入らなくてもみんなで歌えるようになりました。次はもう少し難しい曲にも挑戦したいと思います。(臼井)



世界について学ぼう！

中学生 「世界の地理」について学んでいます。世界の国々や州、六大陸、三大洋、気候、人々の暮らしについて学ぶ中で、生徒は皆、世界と日本の違いに気づきます。ワールドカップシーズンということもあり、出場国の名前を言う生徒もいます。また、昆虫や自動車などの自分の趣味と学習内容を結びつける生徒もいて、皆積極的に学習しています。(吉田)

コンピュータ教室 6月はデジカメを使って写真撮影と写真の簡単な加工に取り組みました。笑っている顔や握手をしている姿など課題にそって写真を撮り、その後ペイントソフトでコメントや見出しを書き加えました。スムーズにコメントをしている姿に、毎回のタイピング・Wordの学習による技術の向上を実感します。暑中見舞いなど、はがきを出す際に活かしてくれると嬉しいです。(北川)



写真にコメントをつけました



コミュニケーション支援の一側面

先日、米国精神医学会の診断基準マニュアルDSM-5の翻訳が日本精神神経学会から出されました。自閉症スペクトラム障害は「自閉スペクトラム症」、注意欠如多動性障害は「注意欠如多動症」、学習障害は「限局性学習症」と訳されています。また、コミュニケーション障害が「コミュニケーション症群」となり、その中に社会的(語用的)コミュニケーション症という聞きなれない診断名があります。この「語用的」という言葉には、言葉の理解や解釈、その仕様に何らかの問題があることを示しているのですが、自閉症スペクトラムの方々も語用障害があるとされていますので、今回はこの点について簡単に説明したいと思います。

言語学の中に語用論という学問があります。語用論とは「言語学の一部として1960年代に始まった研究領域で、一言でいえば『言葉の意味』と『話し手が伝えたい意図』を区別して考え、両者のズレを研究対象にする学問」です。

語用障害があると、文法にかなった文章を書いたり理解したりすることはできても、会話に出てくる何気ない表現に対して、戸惑ったり、違和感を持ったりすることが日常的に起こってきます。例えば、

A君:「東京の天気はどうですか？」

B君:「風が強くて雨が降っているよ。」
という会話と、

副所長 計野 浩一郎

お母さん:「おつかいに行って来てくれる？」

C君:「風が強くて雨が降っているよ。」

という会話では、同じ答えでも、B君の返事は字義どおりに解釈できます。一方C君の返事は、「行きたくない」という拒否の気持ちを含んで柔らかく表現されています。自閉症スペクトラムの方々には、B君の場合の解釈はできますが、C君の隠喩的な表現を字義どおりに解釈すると会話が成立しないことになり、その裏にある心の動きを理解することができません。また、誰かに「空気が読めるようになりなさい」と言われたときに「空気は読んではいけません。吸いなさい。読むのは字です。」と字義どおりに厳密に理解してしまいます。これでは、人間関係がぎくしゃくすることになります。このような点が、わかるようになるための研究が少しずつ進んでいるようですが、支援の決定打はないのが現状です。

ただ、自閉症スペクトラムの方々には、語彙獲得の幅を広げ、文脈を理解する基礎学習を行うとともに慣用句や隠喩等に関する課題を一つ一つ学習して積み上げていくことで、かなりの部分の理解が進むのではないかと思います。また、社会の側はユニバーサルデザインという視点を持って、ことばを省略した言い方(例:「もうできた」⇒「国語の宿題はもうできた」)や遠回しの言い方(例:「コップ取れる」⇒「コップを取って渡してほしい」)等、文脈の理解を不得意としている人たちがいることを理解してコミュニケーションすることで、お互いが生きやすくなるのではないのでしょうか。

保護者勉強会のご案内

当センターのスタッフが受講者の保護者の皆様に以下の日程でお話しさせていただきます。

第2回 9月18日(木) 10時~12時

鈴木裕磨 「縄跳びの指導方法」「器具を使った体育活動(ボルダリング、ストレッチポール他)」

第3回 12月4日(木) 10時~12時

本田孝子・高橋奈都子「幼児の就学に向けて家庭でできる支援」& 大澤徹也「発達検査の生かし方」

武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください

<http://www.musashino-higashi.org>



セミナーのご案内

今年度後半のセミナーを以下の通り実施いたします。ご希望の方はお早めにお申し込みください。

II. 平成26年10月9日(木) 10時~12時

「自閉症スペクトラム児の言葉と心の発達」

松井 智子(東京学芸大学教授)

III. 平成27年1月29日(木) 10時~12時

「子どもの不思議な行動を理解するヒント—感覚統合の視点から—」

有川 真弓(千葉県立保健医療大学准教授)

